

令和2年2月3日発行 第10号 生徒数 600名



上青木中だより

凡事徹底

～当り前のことが当り前にできる生徒・学校・教職員～

我々は未来に何を残すのか

校長 小野 毅

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されています。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。このような状況の中、私たち大人が子供たちに何ができるのか考えさせられます。

サッカー元日本代表監督の岡田武史氏の著書『岡田メソッド』のあとがきに以下のようなことが書かれていました。

私は、高度成長期を含む、70年間も戦争のない最高の時代を生きさせていただきました。そして、自分の子供たち、孫たちに、どういう社会を残そうとしているのか。累積された巨大な国家債務、破壊された自然環境、隣国との緊張関係。本当にこれでいいのか。

私は、劇作家の倉本聰さんと北海道の富良野で「富良野塾」という環境プログラムをやらせていただいています。そのプログラムの1つに「46億年・地球の道」というものがあります。46億年の地球の歴史を460メートルに置き換え、我々インストラクターが460メートルを歩きながら説明していきます。46億年前、地球の大きさは今の10分の1でした。そこからドロドロに溶けたマグマオーシャンの時代、全球凍結のコチンコチンに凍っている時代、海の温度が45度のお風呂より熱い時代、そしてカンブリア紀で生物が華やかになって恐竜時代を経て、460メートルの最後の2センチでホモ・サピエンスが誕生します。

「地球が危ない」とよく言いますが、地球は大丈夫です。人類はどうか。我々の時代はまだ大丈夫でしょうが、子供や孫たちの時代は大変なことになるかもしれません。

プログラムの最後に先生が石碑を作られます。そこにはネイティブアメリカン（インディアン）が今でも伝えている言葉が刻まれています。

「地球は子孫から借りているもの」

地球はご先祖様から受け継いだものではなく、未来に生きる子どもたちから借りているもの。借りているものは傷つけたり汚したり壊してはいけません。こうネイティブインディアンは伝え続けてきました。

ところが文明人と言われる我々は「今日の株価、今年の経済」と、今のことしか考えていないかのように。すべての生物は次世代に命をつなぐために生きています。人間だけが自分のためだけに生きているのでしょうか。

子供たち一人一人が、自らの可能性を發揮し、より良い社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるよう、大人がサポートしなければならぬと感じます。

川口市上青木西3-9-1 TEL 048-265-3318 相談室 048-265-3489

<https://kamiaoki-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp/>